

和田悠花

9/13～10/7 まで、3 週間ミラノへ研修に行っていました。

今回は声楽の先生 1 名、コレペティの先生 4 名によるレッスンがありました。先生たちは、少ない回数のレッスンの中で、私達一人ひとりのより輝いているところと、これからもっと伸ばしていけるところをご指摘下さいました。そして「今勉強すべき曲」「これから挑戦していくべき曲」「将来舞台で歌っていけるであろう役」など、未来へと繋がっていく大きなヒントをたくさん下さいました。

3 週間の間に、いくつかのスカラ座公演の観劇もさせていただきました。なかでも印象的だった演目は、スカラ座が誇る伝統的な演出による「リゴレット」でした。巨匠レオ・ヌッチがタイトルロールとして大きな支柱となり、周りをスカラ座アカデミー研修生・卒業生が固めた豪華なプロダクションで、スカラ座だけでなく 10 箇所の大劇場で上演されたとのこと。大きな可能性をもつ同世代の若い歌手たちが、憧れの舞台上で堂々と歌い演じる姿を見て、世界へ羽ばたいていきたいという思いは更に強くなりました。

研修中は、先生方だけでなく、事務の方々も非常に温かく親身になって下さいました。レッスンの日は少しでも時間ができると稽古の様子を伺いにいらして下さったり、スカラ座の中を案内し歴史についてお話して下さったり、演技の授業では助演として参加して下さったりもしました。短い研修期間をより充実したものにしようとしてご尽力いただき、とても嬉しかったです。

研修の最後には、スカラ座博物館にてミニコンサートをさせていただきました。お客様は、現地の方々 50 名がいらして下さいました。スカラ座アカデミー講師のスカレーラ先生にピアノに支えられ、素敵な時間を過ごさせていただきました。私が歌わせていただいたのはフランスオペラのアリアでしたが、涙して下さった方もいらして、「言語や国籍を越えて伝わるものがあるんだ！」と肌で感じた幸せな夜でした。

皆様に支えられ、非常に密度の濃い 3 週間を過ごさせていただきました。この経験をこれからの研修に活かし、更なる高みを目指して研鑽を積んでいきたいと思えます。